

静音性と小型・薄型デザインが医療・福祉・介護の現場に最適！

京都大学と諏訪地域産業との連携 コラボレーションで生まれた提案型パソコン「Vent-Box」

優れたデザイン、静音性、「Vent-Box」

この10年ほど進んだ大手企業の中国アジアなどへの生産の海外シフトやそれにとまなう地場産業への仕事量の減量や賃率などの低下によって相対的に厳しい状況に置かれることになった中小企業は自らのむかうべき新たな産業創生とビジネスモデルを考えだすことが必要となってきました。

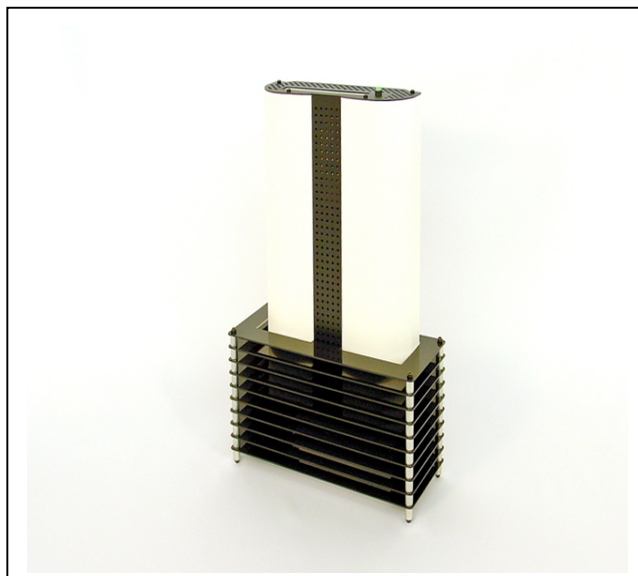
この諏訪地域においても同様なことがこの十数年にわたり問われてきているなかで地元中小企業のグループと京都大学・松井助教授の間で中小企業であっても市場競争力のある製品群やマーケットへの訴求力を構築する方法論はどういったものなのか、もともとそれは可能であるのか、可能であるならばどういふことが必要であったり問題点は何なのかを実証していくプロジェクトが地元中小企業のグループと京都大学・松井助教授の間で二年前より開始されました。

近年進展を見せる電子デバイスの高度集積化や部品などのモジュール化を利用し中小企業であっても比較的最終製品を構想し組みあげることができる時代になったこと、また、同時にオリジナリティーのあるデザインや中小企業の連携によって市場競争力のある機能や性能、技術などを製品や部品などに投入できるようになったこと、インターネットなど情報技術を駆使することによって最終ユーザーと直接つながることが可能な時代になったこと、などから、このプロジェクトとしてどのような製品を実証モデルとして選択するかを議論してきました。

2003年始めには上記のようなことを念頭におくなかで小型で音が低くデザイン性に優れた家庭用パソコンの開発に目標を定め秋頃より具体的な開発作業に着手、3種類、5台のパソコンを完成させました。

2004年9月には秋葉原のパソコンショップに展示し市場の反応とこのパソコンの製品としての可能性、そして今後のプロジェクトのむかうべき方向を探りはじめました。

今回のプロジェクトのフェイズの終了後は地場の中小企業の選択できる事業としての、あるいは今回にプロジェクトのプロセスそのものが広く中小企業集積が選択できる産業モデルの提案としても汎用性があるモデルかどうか地元企業と京都大学の協力によって研究していく予定です。



京都大学松井研究室・ケルビム・スマートセンサーテクノロジー・
コジマ工業・日拓精工・インダストリーネットワーク・